

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 22 日

【評価実施概要】

事業所番号	2 1 7 2 7 0 0 2 8 4		
法人名	特定非営利活動法人 まめなかな		
事業所名	グループホーム まめなかな		
所在地	岐阜県高山市上切町 8 0 番地 (電話) 0 5 7 7 - 3 7 - 3 2 0 0		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	各務原市三井北町 3 丁目 7 番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年8月5日

【情報提供票より】 (平成 20 年 6 月 10 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 10 月 13 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	9,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 6 月 10 日 現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護 1	3 名	要介護 2	1 名
要介護 3	4 名	要介護 4	0 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 78 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さもりファミリークリニック・高山赤十字病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの古い民家そのままのたたずまいは、郊外の田園地帯に自然に溶け込んでいる。女性ばかりで8名の利用者は、介護度が低く、表情も明るく行動的で、ほほえましくにぎやかな会話が利用者同士や職員との間で交わされている。広間にある古い仏壇に朝の読経を行い、年代物の家具、黒染めの天井の頑丈な梁などは、家庭の延長としての癒しの空間を備えている。職員は定着率も良く、先駆的な高齢者支援事業を運営している理事長の下で、利用者の気持ちに寄り添い、ひたむきに穏かな暮らしを支えている。今後も、地域とのより緊密な関係づくりと、運営推進会議の機能を活用したより良いサービスに向けた取り組みが期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、重要事項説明書内に事業所の苦情受付窓口が記載されていなかったが、明確に示され、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価での改善課題は示されていないが、現状に甘えることがなく、常によりよいサービスに向けて、恒常的に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、グループホームの現状報告と課題について意見を交わしている。石油高騰による運営コストへの影響について、また、利用者定員8名から9名への変更申請についても検討課題となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からは、取り立てて意見・苦情は寄せられていない。家族の意見・苦情・不安については、運営推進会議や訪問時に話し合いができるように、繰り返し伝え、家族、ホームとの開かれた関係づくりに努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の準会員として、行事への協力金の供出、祭りや公民館行事に参加している。地域防災にも、住民の協力体制や連絡網ができています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢になっても、その人の持っている力を活かしながら、地域の中で生き生きとした暮らしを継続するための理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や食堂に掲示し、全職員が意識し、共有しながら、日々のケアに反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや公民館行事に積極的に参加している。ホーム行事にも地域の人々を招いたり、自治会の回覧板がまわってくるなど、地域の一員として交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、評価の意義を十分理解し、利用者のなにげない言動を観察しながら、気づきを促し、良いところは伸ばすように取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に行われ、家族・職員、時には利用者も参加し、現状の取り組みに対して意見交換が行われ、改善課題についての意見はサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の介護サービス事業所運営委員会の支部会議が隔月行われ参加している。また、ケアマネジャー会議も隔月に行われ、市担当者と連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者に状態の変化があれば随時報告している。毎月の請求書に添えて、暮らし振りやホームの様子を報告している。他にも、ホーム広報新聞を年4回発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が利用者を連れ、親族の葬儀に参列したが、混乱したケースがあった。家族とは、認知症の理解と今後の対応について話し合い、事例を検証して、ホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	直近1年で、1名の異動があったが、必要最小限であり、利用者の状態は全職員が把握しており、ダメージを与えるような影響は起きていない。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じ て育成するための計画をたて、法人内外 の研修を受ける機会の確保や、働きなが らトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修、管理者研修に積極的に 参加している。また、専門資格の取得に職員 それぞれが意欲的に挑戦している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業 者と交流する機会を持ち、ネットワーク づくりや勉強会、相互訪問等の活動を通 じて、サービスの質を向上させていく取 組みをしている	岐阜県グループホーム協議会の支部会議やケ アプラン研究会に参加し、同業者と交流し ている。また、特定の同業者とは、イベント などで相互に訪問し、交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービス を利用するために、サービスをいきなり 開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家 族等と相談しながら工夫している	デイサービス利用者が入居されるケースがあ るが、すぐに馴染めない人には、体験入居を 2～3回に分けて行ってもらい、納得してから 入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場 におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽 を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	利用者の中には、活け花、茶道、料理、畑仕 事の得意な人がいるので、それぞれができる ことを一緒に行いながら、支え、学んだりし ている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護度が低い元気な利用者が多く、家族の訪問が楽しみな人、働きたい人、散歩・ドライブが好きな人など思いを把握し、支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のミーティングで意見を出し合い、本人にとっての望ましいケアを介護計画に反映させている。その際には、本人や家族の意見も取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期的見直しを行っているが、心身状態に変化があれば、随時見直している。その場合は、本人・家族・医師など関係者と話し合っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算の中で、医師による24時間の往診体制、医療機関への受診時の送迎、早期退院に向けた支援をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より全面的な協力が得られている。週1回の往診や医療相談が受けられる。一部の利用者は、かかりつけ医の受診があるが家族の都合が悪い場合は、職員が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りに関しての指針は、文書化されており、現実の対応は、医師や家族と相談し、病院への入院となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	命令調にならないように言葉掛けには、日頃より心がけ、気配りしている。顔写真の掲載には、家族より承諾書を取っている。記録類は安全な保管管理を定めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で、ホームが設定しているものもあるが、朝の読経、利用者同士の会話、テレビ観賞など利用者の自由に過ごしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、家庭的な調理を心がけている。職員も一緒に食事を摂り、楽しい会話で雰囲気づくりをしている。利用者は、茶の準備、後片付けを全員で協力して行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否の利用者の対応に苦慮していたが、入浴の順番をジャンケンで決める方法が利用者の入浴意欲を刺激したようで、今では、全員が楽しみとしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日課としての散歩、体操、学習ドリルなどがある。隔週に訪れる音楽療法士による音楽療法、娯楽ボランティア、ドライブも利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、周辺の散歩に出かけている。畑の収穫や買い物、ドライブにも出かけている。足腰の機能低下を防止する手段として、毎日の散歩を重視している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーチャイムを設置している。日中は開放し、チャイム音で職員が利用者の行動を察知し、対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で、年2回の防災訓練が行われている。地震や水害時には、地域の協力が得られる体制がある。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事の提供と、水分補給を重視している。夜間は水筒にお茶を入れて、利用者が所持し、いつでも飲めるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間には、全員が座れるソファがあり団欒の場となっている。夏はクーラーが要らないほどの涼風が入ってくる。2階への階段は、両サイドに手すりと滑り止めマットが張られて利用者が自由に昇降している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた小物類、衣装ケース、家族の写真テレビなどがあり、居心地のよい生活空間となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。